

## 『マツヤ・プラーナ』254章；和訳と注解 ——建物の大きさと構成——

文学研究科仏教学専攻博士後期課程満期退学

出野 尚紀

### はじめに

『マツヤ・プラーナ』 *Matsyapurāṇa* は、伝統的に主要とされる18のマハープラーナの1つであり、全部で291章からなる。それらの中で、252章から270章が「建築論」に充てられている<sup>1</sup>。「建築論」の部分には、ヒन्दゥー建築論では当然の事ながら、建築に関する部分と尊像製作に関する部分からなり、建築の部分は257章までであり、以降が尊像製作を記す部分になっている。

本稿で扱う第254章は、44偈からなり、全てがシュローカ韻律を用いる韻文である。254章の内訳を仮に作り、偈の番号をあわせて記すと、①部屋や出入り口の配置に基づく建物の名称について（1～14偈ab）、②身分に応じた建物の大きさ（14cd～36）、③道路と建物の関係（37～38）、④増築について（39～40）、⑤建物に用いる材料と室内の大きさについて（41～42）、⑥出入り口の大きさについて（43～44）という構成になる。

254章で用いられている用語は、一般的なサンスクリット語辞典に記載されているものがほとんど存在しない。それらについては、テキスト本文中において、定義づけられているが、占星術書ではあるが百科全書的な傾向を持つ『ブリハット・サンヒター』 *Bṛhatsaṃhitā* の52章や、『マヤマタ』 *Mayamata* の26章と『サマラーンガナスートラダーラ』 *Samarāṅgaṇasūtradhāra* の25章のような、建築論書の該当する章に、より詳しく記載されている。そして、本章の記述は、簡素な記述である『ブリハット・サンヒター』に比してもより一層少なく、その定義が述べられていても、用語が記されていないものもある。この用語よりも定義を記そうとする態度に、本章の特徴が見えるのではないだろうか。

また、刊本として *Śrīmadvaipāyanamunipraṇītaṃ Matsyapurāṇam*, Ānandāśrama (ed.), Ānandāśrama Saṃskṛta Granthāvalī 54, Poona, Ānandāśrama, 1981., *Matsyapurāṇam (Bhāṣāṭīkā Sahita)*, Bastirāma (Hindi note), Vidyābhavana Prācyavidyā Granthamālā 119, Vārāṇasī, Caukhambā Vidyābhavana, 2001., *The Matsyapurāṇam Text in Devanagari*

*Translation & Notes in English*. 2vols., Singh, Nag Sharan (arranged), Horace Hayman Willson (foreword), Delhi, Nag Publishers, 1983. の3本がある。しかし、これらは、十分な批判的校訂を行ったとは言い難く、連書と分書などに微妙な差異が見られる。そこで、底本として、N. を使用し、他の2本を適宜参照した。また、N. には不完全な英訳が付されているが、それと全く同じ英訳が *The Matsya puranam. The Sacred books of the Hindus* 17, Srisa Chandra Vasu (edited), 2vols., Allahabad, 1917. (Reprinted New York : AMS Press, 1974.) にもある。

## 本文と和訳・注解

sūta uvāca /

スータは言った。

[部屋や出入り口の配置に基づく建物の名称について]

catuḥśālaṃ pravakṣyāmi svarūpān<sup>2</sup> nāmatas tathā/

四方に建物があり中央に中庭があるもの (catuḥśāla) を構造と名称から説明しよう。

catuḥśālaṃ<sup>3</sup> caturdvārair alindaiḥ sarvatomukham //1//

nāmnā tat sarvatobhadraṃ śubhaṃ deva-nṛpālaye /

四方に建物があり中央に中庭があるものは、四方に出入り口<sup>4</sup>を持ち、全周囲に渡って建物の入り口前にはテラス (alinda) を備えている。それは、神々や王族のための建物として [建てられ]、サルヴァトールバドラ sarvatobhadra という吉祥をもたらす名称である。

paścima-dvāra-hīnaṃ<sup>5</sup> ca nandyāvartaṃ<sup>6</sup> pracakṣate //2//

dakṣiṇa-dvāra-hīnaṃ tu vardhamānam udāhṛtam<sup>7</sup> /

pūrva-dvāra-vihīnaṃ tat svastikaṃ nāma viśrutam //3//

rucakaṃ cōttara-dvāra-vihīnaṃ tat pracakṣate /

そして、西方の出入り口を欠いたものは、ナンディヤーアーヴァルタ nandyāvarta<sup>8</sup> と呼ぶ。南方の出入り口を欠いたものは、ヴァルダマーナ vardhamāna [という名称] が与えられる。東方の出入り口を欠いたものは、スヴァスティカ svastika という名称でよく知られている。そして、その北方の出入り口を欠いたものは、ルチャカ rucaka と呼ぶ。

saumya-śālā-vihīnaṃ yat trisālaṃ dhānyakaṃ ca tat //4//  
kṣema-vṛddhi-karaṃ nṛṇāṃ<sup>9</sup> bahu-putra-phala-pradam /

三方に建物を配する〔建物のうち〕北方の部屋を欠いたもの<sup>10</sup>は、人々の幸福を増加させる行為が多くの子息を結果としてもたらす。

śālayā pūrvayā hīnaṃ sukṣetram iti viśrutam//5//  
dhanyaṃ yaśasyam āyuṣyaṃ śoka-moha-vināśanam /

東方の部屋を欠いているものは、スクシェトラsukṣetraとして知られ、〔人々の〕豊かさ、高貴さ、長命〔をもたらし〕、悲しみや迷妄をなくすような〔建物〕である。

śālayā yāmyayā hīnaṃ yad viśālaṃ tu śālayā //6//  
kulakṣaya-karaṃ nṛṇāṃ<sup>11</sup> sarva-vyādhi-vināśanam /

南方の部屋を欠いていながらも、部屋のために大きな建物〔が建てられているもの〕<sup>12</sup>は、人々の滅亡、すべての病気に起因する没落〔をもたらし〕。

hīnaṃ paścimayā yat tu pakṣaghnaṃ nāma tat punaḥ //7//  
mitra-bandhu<sup>13</sup>-sūtān hanti<sup>14</sup> tathā sarva-bhayāvaham<sup>15</sup> /

さらにまた、パクシャグナpakṣaghnaという名称〔の建物〕では、西方の〔部屋〕を欠いていて、友人たち、兄弟たち、息子たちを殺し、それから、すべての恐怖の原因となる。

yāmyâparābhyāṃ śālābhyāṃ dhana-dhānya-phala-pradam //8//

〔また、〕南方と西方の2部屋〔の建物〕<sup>16</sup>が、財宝と穀物を結果として与える。

kṣema-vṛddhi-karaṃ nṛṇāṃ tathā putra-phala-pradam /  
yamasūryaṃ<sup>17</sup> ca vijñeyaṃ paścimōttara-śālakam<sup>18</sup> //9//

人々の幸福を増加すること、それから、息子を与えることが、北方と西方に部屋があるヤマスーリヤyamasūryaには、知られている。

rājāgni-bhayadaṃ nṛṇām<sup>19</sup> kulakṣaya-karaṃ ca yat /  
udak-pūrve tu śāle dve<sup>20</sup> daṇḍākhye yatra tad bhavet //10//<sup>21</sup>

人々の間に王や火による災いや、一族が滅亡するようなものが、北方と東方の2部屋があるダンダークヤdaṇḍākhyāにおいて発生するだろう。

akāla-mṛtyu-bhayadaṃ paracakra-bhayāvaham /  
dhanākhyam pūrva-yāmyābhyām śālābhyām yad viśālakam //11//

豊かであっても、不測の死の災いや、敵軍による災いを、東方と南方に部屋があるダナークヤdhanākhyāが〔もたらす〕。

tac chastra-bhayadaṃ nṛṇām<sup>22</sup> parābhava-bhayāvaham<sup>23</sup> /  
cullī pūrvāparābhyām tu sā bhaven mṛtyu-sūcanī //12//

人々の間における武器による災いや、〔財産を〕失う災いの〔原因〕が、東方と西方に〔部屋があるグリハ〕チュッリーgr̥ha-cullī<sup>24</sup>にあり、この〔建物〕が、死の原因にもなるだろう。

vaidhavya-dāyakaṃ strīṇām aneka-bhaya-kārakam /  
kāryam uttara-yāmyābhyām śālābhyām bhayadaṃ nṛṇām //13//

女性たちは寡婦となり、多くの災いに見舞われる。北方と南方に部屋があるため、人々は災いに見舞われる。<sup>25</sup>

siddhārtha-vajra-varjyāni<sup>26</sup> viśālāni sadā<sup>27</sup> buddhaiḥ /

賢者たちによって、いつも、広い部屋はスィッダールタsiddhārthaやヴァジュラユクタvajrayukta<sup>28</sup>において避けられるべきである。

〔身分に応じた建物の大きさ〕

athātaḥ saṃpravakṣyāmi bhavanaṃ pṛthivī-pateḥ //14//

さてここで、土地の所有者の館について説明しよう。

pañca-prakāraṃ tat proktam uttamâdi-bhedataḥ /  
 aṣṭôttaraṃ hasta-śataṃ vistāraś cōttamo mataḥ //15//

〔王のための宮殿の大きさには〕「最上」などの5つの種類の区分があると説明されている。108ハスタの横の長さが「最上」であると考えられている。

caturṣv anyeṣu vistāro hīyate cāṣṭabhiḥ karaiḥ /  
 caturthâṃsâdhikaṃ dairghyaṃ pañcasv api nigadyate //16//

他の4種類は、8ハスタずつ減ぜられるように横の長さが配される。5種類とも縦の長さは〔横の長さを〕5/4〔倍に〕長くしたものと述べている。

yuvarājasya vakṣyāmi tathā bhavana-pañcakam /  
 ṣaḍbhiḥ ṣaḍbhis tathâsītir hīyate tatra vistarāt //17//

同様に、私は王子のため宮殿の5つの種類を言おう。86ハスタの横の長さが〔「最上」であり〕、6〔ハスタ〕ずつ減じる。

try-aṃśena<sup>29</sup> câdhikaṃ dairghyaṃ pañcasv api nigadyate /  
 senāpateḥ pravakṣyāmi tathā bhavana-pañcakam //18//

5種類とも縦の長さは〔横の長さを〕4/3〔倍に〕長くしたものである。それから、將軍の邸宅の5つの種類を言おう。

catuṣṣaṣṭis tu vistārāt ṣaḍbhiḥ ṣaḍbhis tu hīyate /  
 pañcasv eteṣu dairghyaṃ<sup>30</sup> ca ṣaḍbhāgenâdhikaṃ bhavet //19//

64〔ハスタ〕の横の長さが〔「最上」に〕、また、6〔ハスタ〕が〔減らす長さに〕配される。これらの5種類において縦の長さを〔横の長さの〕7/6倍にするべきである。

mantrinām atha vakṣyāmi tathā bhavana-pañcakam /  
 catuś-caturbhir hīnā syāt kara-ṣaṣṭiḥ pravistare<sup>31</sup> //20//

さて、大臣たちの邸宅〔の大きさ〕を言おう。それには5つの種類があり、60ハスタの横

の長さから4ずつ減らす。

aṣṭāṃśenādhikaṃ dairghyaṃ pañcasv api nigadyate /  
sāmantāmātya-lokānāṃ vakṣye bhavana-pañcakam //21//

9/8倍したものを縦の長さにし、また、〔縦の長さも同様に〕5つの種類が言われる。太守や高官たちの邸宅の5つの種類を言おう。

catvāriṃśat tathāṣṭau<sup>32</sup> ca caturbhir hīyate kramāt /  
caturthāṃśādhikaṃ dairghyaṃ pañcasv eteṣu śasyate //22//

それには48〔ハスタの横の長さ〕があり、4〔ハスタ〕ずつ〔減るように長さが〕配される。5/4倍してものを縦の長さにし、これら5つの種類が言われている。

śilpināṃ kañcukīnāṃ<sup>33</sup> ca veśyānāṃ gṛha-pañcakam /  
aṣṭāviṃśat-karāṇāṃ<sup>34</sup> tu vihīnāṃ<sup>35</sup> vistare kramāt //23//  
dviguṇaṃ dairghyam evōktaṃ madhyameṣv evam evam tat /

建築家たち、家臣たち、遊女たちの〔住む〕建物の5種類は、28ハスタの〔横の長さがあり〕、横の長さから1〔ハスタ〕ずつ〔減らす〕。〔縦の長さは横の長さの〕2倍であると言われる。よって、それは中央にあるものにおいて〔基準とする〕<sup>36</sup>。

dūti-karmāntikā<sup>37</sup> dīnāṃ vakṣye bhavana-pañcakam //24//  
caturthāṃśādhikaṃ dairghyaṃ vistāro dvādaśāiva tu /  
ardhārdha-kara-hāniḥ syād vistārāt pañcaśaḥ kramāt //25//

召し使いや家僕などの〔住む〕家屋の5種類を言おう。縦の長さを〔横の長さの〕5/4倍とし、横の長さが12〔ハスタ〕にする。順次1/4ハスタずつ減らしていき、横の長さを5つの種類にするべきである。

daivajña-guru-vaidyānāṃ sabhāstāra-purodhasām /  
teṣām api pravakṣyāmi tathā bhavana-pañcakam //26//  
catvāriṃśat tu vistārāc caturbhir hīyate kramāt /  
pañcasv eteṣu dairghyaṃ ca ṣaḍbhāgenādhikaṃ bhavet //27//

同様に、占星術師、学匠、医者、顧問官、祭祀官。彼らの家屋の5種類〔の大きさ〕も言おう。40〔ハスタ〕の横の長さから、順次4〔ハスタ〕ずつ〔減るように長さが〕配される。そして、縦の長さは〔横の長さの〕7/6倍にし、5つの種類とするべきである。

caturvarṇasya vakṣyāmi sāmānyam gṛha-pañcakam /  
dvātriṃśataḥ<sup>38</sup> karāṇām<sup>39</sup> tu caturbhir hīyate kramāt //28//

4つのヴァルナの一般的な家屋の5種を言おう。〔ブラーフマナの家は、〕32ハスタの〔横の長さとし〕、順次4〔ハスタ〕ずつ〔減るように長さが〕配される。

ā-ṣoḍaśād iti param nūnam antyāvasāyinām<sup>40</sup> /  
daśāṃśenāṣṭabhāgena tribhāgenātha<sup>41</sup> pādikam //29//  
adhikaṃ dairghyam ity āhur brāhmaṇādeḥ praśasyate /

「16〔ハスタ〕へ〔向かって短くなる〕」と〔言われ〕、確かに他の〔身分の〕家屋の〔大きさ〕は、最終的に〔16ハスタに〕なる。<sup>42</sup>「〔ブラーフマナの家屋は横の長さの〕11/10倍、〔クシャトリヤは〕9/8倍、〔ヴァイシュヤは〕4/3倍<sup>43</sup>、〔シュードラは〕5/4倍、縦の長さは大きくなる」と言われ、〔このように〕ブラーフマナなどの〔家屋は〕説明される。

senāpater nṛpasyāpi gṛhayor antareṇa tu //30//  
nṛpa-vāsa-gṛhaṃ kāryaṃ bhāṇḍāgāraṃ tathāiva ca /  
senāpater gṛhasyāpi caturvarṇasya cāntare /  
vāsāya ca gṛhaṃ kāryaṃ rāja-pūjyeṣu sarvadā //31//

将軍、王もまた建物の近くに、王に扈従するものの建物と貯蔵庫を建てるべきである。将軍の住居、そして、4ヴァルナに属す人々の〔建物の〕隣に、常に崇敬される王に随従するために〔顧問官？が〕居住するための建物を建てるべきである。

antaraprabhavāṇām ca sva-pitur gṛham iṣyate /  
tathā hasta-śatād ardhaṃ<sup>44</sup> gaditaṃ vana-vāsinām //32//

そして、雑種身分たちの〔住居〕は、自分の父の住居〔と同じ大きさ〕を望むべきである。それから、森に住むものたちの〔住居〕は、50ハスタと言われる。

senāpater nṛpasyâpi saptatyā sahite'nvite /  
caturdaśa-hṛte vyāse śālā-nyāsaḥ prakirtitaḥ //33//

将軍と王も70〔ハスタ〕をしている。建物の大きさが14種類に分けられることが説明された。

pañcatrīṃśānvite tasmin alindaḥ samudāhṛtaḥ /  
tathā ṣaṭtrīṃśad-dhastā<sup>45</sup> tu saptāṅgula-samanvitā //34//  
viprasya mahatī śālā na dairghyaṃ parato bhavet /

その35〔ハスタ〕からなる〔建物入り口前にあるテラスの部分〕に、アリンダという名が付けられた。それから、36ハスタと7アングラの長さのものが、ブラーフマナの大きな建物にあるが、縦の長さの後部には存しないべきである。

daśāṅgulādhikā tadvat kṣatriyasya vidhīyate //35//  
pañcatrīṃśat-karā vaiśye aṅgulāni trayodaśa /  
tāvat karaḥiva sūdrasya yutā pañcadaśāṅgulaiḥ //36//

それから、〔縦と横に、36ハスタと〕10アングラがクシャトリヤの〔建物に〕規定される。ヴァイシュヤには35ハスタと13アングラが、シュードラの〔建物には〕そのハスタ（35ハスタ）と15アングラが適用される。

〔道路と建物の関係〕

śālāyās tu tribhāgeṇa<sup>46</sup> yasyāgre vīthikā bhavet /  
soṣṇīṣaṃ nāma tad vāstu paścāc śreyōcchrayaṃ bhavet //37//

ところで、建物を〔前面・側面・背面の〕3つに分けた場合に、前面に道があるべきである。ソーシュニーシャsoṣṇīṣaという名の建物は、背面が広く〔空いていて〕高くなっているべきである。

pārśvayor vīthikā yatra sāvaṣṭambhaṃ<sup>47</sup> tad ucyate /  
samantād vīthikā yatra susthitaṃ tad ihōcyate //38//

両側面に道がある場合は、サーヴァシュタンバśāvaṣṭambhaと言われる。全周囲に道があ

る場合は、実にスステイタ *susthita* とされる。

〔増築について〕

*śubhadam sarvam etat syāc cāturvarṇye*<sup>48</sup> *caturvidham /*  
*vistārāt ṣoḍaśo bhāgas tathā hasta-catuṣṭayam //39//*  
*prathamo bhūmikōcchrāya upariṣṭāt parihyate /*  
*dvādaśāṁśena sarvāsu bhūmikāsu tathōcchrayaḥ //40//*

すべてに幸運なこの〔建物〕は4ヴァルナにおいて4倍に〔増築〕することができる。横の長さから1/16の部分と4ハスタが、最初に地面の上にさらに置かれる。そして、すべての地面に〔横の長さから〕1/12が増加される。

〔建物に用いる材料と室内の大きさについて〕

*pakveṣṭakā bhaved bhittiḥ ṣoḍaśāṁśena vistarāt /*  
*dāravair api kalpā*<sup>49</sup> *syāt tathā mṛnmaya-bhittikā //41//*

壁は焼成レンガ製とし、〔その厚さは〕横の長さから1/16にするべきである。木製でも、それから、土製の壁としてもよい。

*garbha-mānena mānaṁ*<sup>50</sup> *tu sarva-vāstuṣu śasyate /*  
*gṛha-vyāsasya pañcāśad aṣṭādaśabhir aṅgulaiḥ //42//*

また、内部の大きさの基準をすべての建物にたいして説明しよう。建物〔内部の〕種類には50種があり、18アングラずつ〔変えるべきである〕。

〔出入口の大きさについて〕

*saṃyuto dvāra-viṣkambho dvigūṇaś cōcchrayo bhavet /*  
*dvāraśākhāsu bāhulyam ucchrāya-kara-saṃmitaiḥ*<sup>51</sup> *//43//*

〔それに〕結びつけられた出入口の柱は、〔入り口の横幅の〕2倍まで大きくするべきである。門扉においては高さの〔種類が1ハスタ毎に〕配分されることによって、沢山の〔種類〕がある。

*aṅgulaiḥ sarva-vāstūnām pṛthutvaṃ śasyate budhaiḥ /*

udumbarôttamâṅgaṃ ca<sup>52</sup> tadârdhârdha-pravistarât<sup>53</sup> //44//

すべての建築用地の大きさは、賢者たちによって、アングラ〔を基準とする単位〕によって説明される。また、最上の敷居の部分はその大きさから1/4にする。

#### テキストと略号

Ānandāśrama (ed.), 1981, *Śrīmadvaipāyanamunipraṇītaṃ Matsyapurāṇam*, Ānandāśrama Saṃskṛta Granthāvali 54, Poona, Ānandāśrama. (A.)

Bastīrāma (Hindi note), 2001, *Matsyapurāṇam (Bhāṣāṭīkā Sahit)*, Vidyābhavana Prācyavidyā Granthamālā 119, Vārāṇasī, Caukhambā Vidyābhavana. (C.)

Singh, Nag Sharan (arranged), Willson, Horace Hayman (forworded), 1983, *The Matsyapurāṇam Text in Devanagari Translation & Notes in English*. 2vols., Delhi, Nag Publishers. (N.) (底本)

#### 参考文献

出野尚紀, 2010, 「『マツヤ・プラーナ』253章；和訳と注解 — 建築時期と建築用地」、『東洋大学大学院紀要』第46集、東洋大学大学院、pp. 147-159。

小倉泰, 1999, 『インド世界の空間構造－ヒンドゥー寺院のシンボリズム』春秋社。

上村勝彦訳, 1984, 『カウティリヤ実利論 古代インドの帝王学』(上) 岩波文庫。

矢野道雄・杉田瑞枝訳注, 1995, 『占術大集成－古代インドの前兆占い－』1 東洋文庫589、平凡社。

Dagens, Bruno (ed. & trans.), 1994, *Mayamatam : Treatise of Housing Architecture and Iconography* vol. 1, 3rd. print, New Delhi, Indira Gandhi National Centre for the Arts.

Gaṇapatiśāstrī, T. (ed.), 1966, *Samarāṅgaṇa-Sūtradhāra*, Gaekwad's Oriental Series (G. O. S) 25, 2nd. Revised, 1st. edition 1924-25, Baroda, Oriental Institute.

Iyer, N. C. (ed. & trans.), 1987, *The Bṛhat Saṃhitā of Varāha Mihira*, Delhi, Śrī Satguru Publications.

Sharma, Sudarshan Kumar (trans.), 2007, *Samarāṅgaṇa Sūtradhāra of Bhojadeva* (with An Introduction, Sanskrit Text, Verse by Verse English Translation and Notes), 2 vols. , Delhi, Parimal Publications.

Tivārī, Narvadeśvara (ed.), 2006, *Sriḥ Varāhamihira-viracitā Bṛhat-saṃhitā*, Vārāṇasī, Bhāratiya Vidyā Prakāśan.

Taluqdar, A. (trans.), Vasu, Srisa Chandra (ed.), 1974, *The Matsya puranam*, The Sacred books of the Hindus vol. 17, pt. 2 , Reprinted, New York, AMS Press.

Tripāṭhī, Avadha Vihārī, 1968, *Bṛihat Saṃhitā*, pt. 1, Varanasi, Varanaseya Sanskrit Vishvavidyalaya.

1. C. は全290章であり、他の2版の160章が章として立てられていないため、1つずつずれ、建築分野は251章から269章となる。
2. C., N. は、svarūpanと単数対格が連声した形にするが、後続のnāmatasと同様の、A. の為格であるsvarupānが連乗したとする。
3. C., N. °śālañ.
4. dvāraは「門」と訳されるが、ここでは建物の入り口として屋内に続く場合も含んでおり、門として開いた空間に続く場合があるが、それに限定されてはいないので、「出入口」とした。
5. C., N. °hīnañ.
6. C., N. °vartaḥ.
7. C., N. upāhr̥°.
8. 単語分割をするとnandī-āvartaと分けられる。
9. A. nṛṇām.
10. *Bṛhatsaṃhitā*52章では、この種の建物はヒラニヤナーバ*hiraṇyanābha*と名づけられている。
11. A. nṛṇām.
12. *Bṛhatsaṃhitā*52章や*Samarāṅgaṇasūtradhāra*25章では、チュッリーculliと名づけられている。
13. C., N. °bandhūn.
14. C., N. hanta.
15. N. °paham.
16. *Bṛhatsaṃhitā*52章では、スイッダールタsiddhārthaと名づけられている。
17. N. °sūryañ.
18. C., N. °śālikam.
19. N. nṛṇām.
20. C. śāle ha, N. śālehaṃ.
21. tad-を主格、daṇḍākhyā-を中性両数対格として読んだ。
22. A. nṛṇām.
23. A. °havam.
24. *Bṛhatsaṃhitā*52章と*Samarāṅgaṇasūtradhāra*25章にもとづき、名称に「グリハ」を補う。
25. *Bṛhatsaṃhitā*52章では、カーチャkācaと名づけられている。
26. C., N. °jyāṇi.
27. C. tathā.
28. 出典は不明だが英訳では、yuktaを補っているなので、その名称に従う。
29. 文法上は、これらの男性若しくは中性の単数具格を、その性数の処格と否定辞naに分けることも可能であるが、ヒンディー語注や英訳、参考とした建築論書などにより、具格とした。
30. C., N. dairghyañ.
31. N. pravistarāt.
32. A. °thā °ṣṭau.
33. C., N. kañcukīnāñ.

34. C., N. karāṇān.
35. N. の英訳では, dvihina-として訳している.
36. 文意不明. 英訳は訳出していない.
37. C. karmatika°.
38. C., N. °trimśati.
39. C., N. karāṇān.
40. C., N. ante vasā°.
41. C. ṣaḍ°. C., N. °bhāgenātha, A. もṇa音は括弧内に入っており、訂正を加えているので、この箇所では元からnの反舌音化にイレギュラーが見られるようだ。
42. クシャトリヤは28ハスタ、ヴァイシュヤは24ハスタ、シュードラは20ハスタと4ハスタずつ短くなっていくことを意味する。建築論書でいわゆる雑種身分の記述は見られないが、4ヴァルナだけでは16ハスタに至らない。雑種身分の可能性はあるが、雑種身分は32偈において父親と同じ大きさと記されている。*Bṛhatsaṃhitā*のウトパラ注では、家屋の大きさは、16ハスタを最小とすることになるが、そうすると、28偈の記述と矛盾をきたす。それとも、「5種」あるのは、ブラーフマナのみなのであろうか。
43. *Bṛhatsaṃhitā*52章では、ヴァイシュヤは7/6倍である。
44. N. arddhaṃ.
45. バフヴリーヒの複合語としてDパーダのsaptāṅgula-samanvitāを修飾するため、女性単数主格となっている。
46. C., N. °bhāgena, A. もṇa音は括弧内に入っており、訂正を加えているので、この箇所では元からnの反舌音化にイレギュラーが見られるようだ。
47. C., N. sāvaṣṭamban.
48. C., N. cāturvarne.
49. C., N. avikalpā.
50. A. mānan.
51. C., N. sammitam.
52. C., N. °māgañ ca.
53. C. tad ardhārdha-, N. tad ardhārdhaṃ.

## A Japanese Translation and Notes of Chapter **254** in the *Matsyapurāṇa*

### —Size and Composition of Buildings—

IDENO, Naoki

This paper is to present a Japanese translation with notes, and critical text of the chapter 254 in the *Matsyapurāṇa*.

Although Puranas are a religious document, an architectural theory is written for the construction of the Hindu temples and the images. And the description also covers the house.

This chapter is titled “the area of building site corresponding to Varna”, and has six contents, namely ① the name of building based on arrangement of room and direction of doorway ; ② size of building corresponding to the caste ; ③ relation between road and building ; ④ the extension ; ⑤ materials used for building and the indoor areas ; ⑥ size of doorway.